

4. 災害看護をリードする活動

1) 民間団体との連携

(1) 特定非営利活動法人ピースウィンズ（PWJ 本部：広島県）との連携

2020 年 1 月に本学と災害時連携協力協定を提携した特定非営利活動法人ピースウィンズ（PWJ 本部：広島県）との連携を、看護学部教員が中心となって継続している。今年度は、主に国際人道危機に関する救援事業の専門的助言を行った。本学研究科博士前期課程修了者が PWJ の災害救援部門（空飛ぶ捜索医療団 Arrows）に就職し、活躍している。

(2) 能登半島地震

令和 6 年 1 月 1 日に発災した能登半島地震・津波災害に際しては、上述 PWJ の国内事業部および上述災害救援部門（Arrows）と本学教員が発災早期から連絡を取り、現地の状況および、本学からの支援活動協力可能性について情報収集を行っている。

博士前期課程在学生在が DMAT 隊員または県の応援派遣の打診を受けて日程調整を行った他、発災直後の Arrows による現地初動救援活動には本学卒業生がチームに加わったとの連絡を受けている。

(3) 学会活動

日本公衆衛生学会モニタリング・レポート委員会（健康危機管理グループ）のメンバーである看護学部教員が、令和 5 年度は、**健康危機管理における DX、ICT の活用**（個別課題③ 課題番号 19）をリーダーとして執筆し、委員会に報告した。

(4) 国際感染症対策 WHO GOARN への参画

WHO と世界の専門機関で構成される GOARN は、国際的な感染症の脅威（アウトブレイク）に際して、緊急に専門家（チーム）の派遣を行う仕組みである。GOARN の登録前研修に、看護学部教員が参加し、登録に必要な所定のプログラムを修了した。専門家登録することによって、感染症対策にパートナー機関エンゲージメント会議にも出席した。

2) COACHES プロジェクト

COACHES は、災害時にすべての被災者の安否と健康状態をクラウド上に記録し、広く共有することで、より効率的で迅速な支援を実現しようという情報イノベーションの取り組みである。本学看護学部木下真里が、高知工科大学や、民間企業、自治体と学際的に連携して実施している開発プロジェクトである。今年度は科研費助成期間の延長を受けて、以下の活動を行った。

(1) 研究成果の発表

① 国際広報誌 Impact Science での研究内容紹介

② 国際学会 WADDEM2023 への参加

口演を行い、COACHES に関して、これまでの研究で得られた知見をもとに有用性、課題を紹介し、議論した。

③ 講演会活動

COACHES の取り組みについては、高知市防災人づくり塾や、第 93 期高知市市民の大学、医工連携交流会などの場で、研究紹介および成果の報告を行った。

(2) 実証研究の実施

① 中土佐町防災フェスティバルへの出展

2日間出展し、COACHESの仕組みについて、住民へ紹介し、実演を行った。住民の反応や、屋外での操作性等について確認した。

② 高知国際中学校における出前講座

全学年 200 名以上に対して COACHES を実演し、生徒もタブレットを使ってデータを集めてみる、という実証的な取り組みを行った。この取り組みにより、サーバ容量や、正確な位置情報の取得方法に関する知見を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

COACHES によって集めたデータを活用して、特殊な保健用品を、ドローン等を使って被災者に届ける実証研究を行うための新たに科研費の申請を行い、採択された。計画した実証研究を行うためには、今年度の取り組みで得られた知見を活かしてシステムの改良を行う必要があり、別途、システム開発予算の助成申請を行う。